

みずまただより

— かしこく やさしく たくましく —

第 10 号

令和 7 年 2 月 26 日

瑞穂野北小学校

発行者 阿久津 浩久



春一番が吹くのでは、と報道された暖かな陽気から一転して再び寒波が到来するなど、予測困難な天気の変化は夏だけのものではなくなってしまったようです。

そのような中でも幸いなことにインフルエンザ等の流行もなく、子供たちは元気に勉強、運動に励んでいます。先日は長縄記録会を行いました。縦割り班や学級で記録をのばそうと声を掛け合う団結力、みんなで声を合わせて数を数え、一つにまとまる力強さなど、元気いっぱい姿に私たち大人も思わず大きな声で応援しました。一方、

うまく跳べない子を責めることなく、ねぎらい、励ます優しさなど、ほほえましい場面もありました。

卒業式・修了式までの登校日もあと 20 日を切りました。一日一日を大切に過ごすことを心がけて、1 年間のまとめを進めていきたいと思います。



うつのみや学校マネジメントシステム アンケート結果から

皆様にご協力いただきましたアンケートの集計結果が出されました。お忙しい中でのご協力ありがとうございました。26 の評価項目の中から、いくつか紹介します。

No.	評価項目	肯定的な回答の割合（％）							
		児童		教職員		保護者		地域住民	
		R 5	R 6	R 5	R 6	R 5	R 6	R 5	R 6
1	児童は思いやりの心をもっている。	89.9	92.8	94.1	89.5	97.3	95.2	100	100
2	児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。	94.6	90.4	100	100	89.0	80.6		
3	児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている	96.1	92.0	88.2	89.5	95.8	85.9	100	100
4	児童は、初めてのことや苦手なことにも失敗を恐れずに挑戦している。	91.5	85.6	94.1	84.2				
5	教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。	96.1	92.0	94.1	100	85.5	70.4		

評価項目 1では、教職員、保護者、地域住民が本校の子供たちは優しく思いやりがあると評価しており、児童も自己肯定感をもっています。本校の特色である縦割り班活動やボランティアとして保護者や地域の皆様が積極的に協力して下さることで、児童が多くの他者とかかわりをもっている成果だと考えます。

2では、児童と教職員の肯定的割合が高いのに対し、保護者の割合が低くなっています。一人一台端末が支給されてから 4 年経ち、日常的に使われるようになったことから特別な印象がなくなってきたのではないかと思います。「ICT 機器を文具のように使いこなす」ことを目指していますので、よい傾向だと考えます。

3では、保護者の割合が昨年よりも下がりました。学校だより第 9 号でも触れましたが、決まりやマナーを守ることへの指導は現在本校で力を入れている部分です。時には毅然とした指導をすることもあり、児童にとってはストレスになるかもしれませんが、それを消化し乗り越えることも大切な経験です。ご理解・ご協力をお願いします。

4については、教職員、児童ともに肯定的割合が下がりました。本校で育みたい資質・能力として「チャレンジする力」を掲げておりますが、私たちも今後も研究していかなければならない課題です。授業中にどんな課題を与えるか、子供たちに任せる、預ける場面をどのように工夫するか、子供たちが解決したい、できるようになりたいと思うためにはどのような投げかけが必要なのか。がんばれ！あきらめるな！とはっぱをかけるだけではなく、子供たちの学びを成立させるための手立てを継続して研究していきたいと思います。

5の保護者の回答が大きく下がったことは、深刻に受け止めております。いじめ防止対策推進法第 2 条にあるいじめの定義によると、いじめは一定の関係がある児童間で発生するとされています。学校は子供たちが集団で生活する場ですので、いじめはいつでもだれにでも起こりうるものです。ですから、発生したトラブルをいち早く把握することについて様々な取組を充実させていきたいと考えております。（いじめについては次ページのコラムもぜひご一読ください。）

水防学校が行われました 2月4日

国土交通省では利根川水系にある河川敷で毎年大規模な水防訓練を行っており、今年の5月には鬼怒川で訓練が実施されるということです。その取組の一環として「水防学校」が本校で行われました。授業には4・5・6年生が参加し、水害やハザードマップについて話を聞いたり、災害対策の技術を見学したり体験したりしました。



せっかくなので1年生や3年生も飛び入り参加をしました。(2年生は校外学習でした)
実は10年前にも本校で水防学校が行われており、その時には土嚢で堤防を作る体験もしていたようです。

なお、今回の様子は5月17日(土)に鬼怒川道場宿グラウンドで行われる水防演習(一般参加可)でも紹介されます。

今までありがとう!! 6年生を送る会 2月19日

卒業式まであと1か月となりました。4月から学校の顔として陰に陽に学校をリードしてきた6年生。責任感が強く、頼りになる6年生も、一年前に6年生を送る会の準備をしていた時はまだまだあどけない様子で悪戦苦闘していたことを思い出します。

お世話になった6年生へ感謝の気持ちを伝えようと、5年生が中心となって在校生みんなで準備を進めてきました。今年は特に5年生の人数が少ないので苦労が多かったと思いますが、縦割り班でのクイズやゲーム、歌や呼びかけのプレゼント、一人一人へのお手紙など、心のこもった温かいひと時となりました。



コラム ～いじめの4層構造～

学校評価アンケートの中でいじめに関する項目について触れましたが、いじめの構造は4層構造とされています。**被害者**と**加害者**に加え、**いじめをはやし立てて面白がり**、**いじめを支持する「観衆」**、**見て見ぬふりをして、自分への被害を恐れ、いじめを黙認してしまう「傍観者」**です。国民性なのか、日本は諸外国に比べて「傍観者」の割合が多いとも言われています。いじめはいつでも誰にでも起こりうるのですが、それが活性化するか沈静化するかは当事者だけではなく、「観衆」や「傍観者」が大きな力を持っている。観衆や傍観者がいじめを否定的にとらえれば許さない雰囲気や仲裁者が出現するなど抑止力が働きます。しかし、いじめを黙認すれば暗黙の支持となり、いじめを一層助長させることにつながるのです。トラブルが発生したとき、教職員は当事者を指導することはもちろんですが、観衆や傍観者のような立場の子供が「いじめは許さない」という考えと強い意志をもってくれることを期待して必ず全体へ話をしています。子供たちは時折「自分は関係ないから」という発言をしますが、「瑞穂野北小の仲間として誰かが辛い思いをすることは見過ごせない!」といった気持ちを、保護者の皆さんと協力しながら育てていきたいと思っています。

